

| | |
|--------|--|
| 研究課題名 | 広島大学病院関連施設における膵癌早期診断症例の臨床病理学的検討 |
| 研究責任者名 | 広島大学大学院医系科学研究科 教授 茶山 一彰 |
| 研究期間 | 倫理委員会承認後～ 2022年12月31日 |
| 対象者 | <p>2006年1月1日～2020年12月31日の期間に広島大学および共同施設で外科的手術を施行され、病理組織学的に膵癌（上皮性腫瘍）と診断された Stage 0（上皮内癌）、Stage IA（膵内に限局して2cm以下、リンパ節転移なし）、Stage IB（膵内に限局して2cm以上、リンパ節転移なし）の患者。</p> |
| 意義・目的 | <p>膵癌は5年生存率がいまだに低い悪性腫瘍で、膵癌の予後の改善には早期診断が重要です。しかしながら、日本膵臓学会による膵癌登録報告2007によると、Stage 0（上皮内癌）の患者数は膵癌のなかで1.7%、Stage IA（癌が2cm未満で、膵臓内にとどまり、リンパ節転移のない症例）は4.1%であり、膵癌の早期診断は容易ではありません。そのため実際に膵癌の早期診断に至った患者さんの症例を集めて、画像所見や病理診断法など特徴的な所見や診断方法をみつけ、予後改善につなげるため、この研究を計画しました。</p> |
| 方法 | <p>本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。カルテから使用する内容は身長、体重、性別、年齢、血液検査、尿検査、治療内容、予後です。（個人を特定可能な情報は脱字にしています）</p> |
| せん) | |
| 共同研究機関 | JA 尾道総合病院、広島記念病院、県立広島病院、JA 広島総合病院、済生会広島病院 |